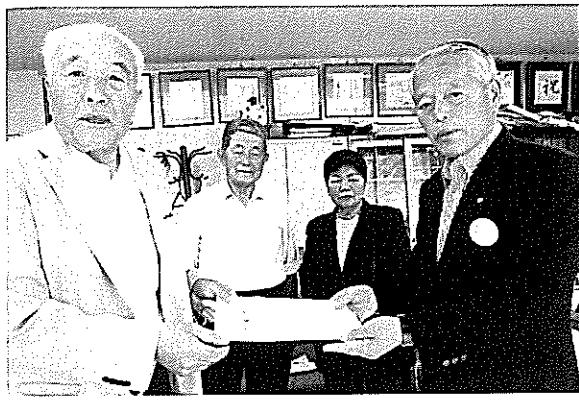


川俣町

農業委員会だより



ごあいさつ

川俣町農業委員会長

鴨原秀雄

ひとことご挨拶申し上げます。

この度の農業委員改選にあたり会長に選任されました、鴨原秀雄と申します。微力ではありますが、委員の皆さん始め各関係機関のご

協力を賜り、業務遂行に努力して参りますので、宜しくお願ひ致します。

さて、農業を取り巻く情勢は、未會有の大震災と東京電力福島第

一原子力発電所の相次ぐ水素爆発に伴い、四年が過ぎ未だに風評被害による福島県産農作物価格が被災以前に戻らず、特に二十六年産米は、過去にない価格の下落による農業意欲衰退につながるのではと危惧するところでもあります。

委員会答申では、農協、農業改革

方針が実施に向け進められています。このような状況での川俣町農業委員会としても推進して参りたいと思います。

地域農業の維持については、集落内農地の現状把握、協議を重ね

防ぼ手確保により休耕、荒廃農地の活動致して参りますので、皆様方の協力、ご指導を賜りますよう、お願い申し上げ挨拶と致します。

第19号

平成27年4月1日

川俣町農業委員会

川俣町字五百田30
☎566-2111

第五十九回 福島県下農業委員大会

「農業の再生で福島県の復旧、復興を進めよう！」

「公選制の堅持と建議機能の継続を勝ち取ろう！」

「我が國農業が犠牲となる国際交渉は絶対反対！」

「農業の情報は全国農業新聞と全国図書で！」

の推進、認定農業者等地域の担い手に対する支援、農業者年金、鳥獣対策の一層の強化等を盛り込んだ、第一号議案「本県農業再生の加速化と来年度における農業政策の推進について」及び第二号議案

「地域農業の実情に即した農業委員会組織改革の実現について」の二議案は、原案通り議決承認され、最後に「大会宣言決議」が読み上げられ、満場一致で採決、閉会しました。（安田時雄）

をスローガンに、第五十九回福島県下農業委員大会は昨年十一月六日、福島市飯坂町「パルセいいざか」で開催され、本町農業委員十六名が参加いたしました。

東日本大震災からの早急な復

旧・復興、原子力災害について、T.P.P・E.P.A交渉等、安定的な農業・農村基本計画、円滑な農水田農業確立対策、新たな「食糧」

地利用調整のための農地中間管理

機構の強化、農業・農村整備事業

の大幅下落と、鳥獣による被害の拡大等により農業への意欲の低下、故から四年が過ぎました。高齢化と川俣町の農業は、災害からの復旧復興は、我々農業者にとってほど遠く感じられます。

十二月二十四日に古川町長に対し

て、平成二十七年度の農業施策に

必ず取り組むよう建議書を提出し

定) 交渉参加撤回の働きかけに

ついて

平成二十七年度 川俣町農業施策に関する 建議

建議項目

(詳細略)

一、原発事故からの復旧、復興への施策

- (一) 「山木屋地区」及び全町内の農地、林地の保全について
- (二) 安全な農林産物の放射能対策
- (三) 認定農業者の育成
- (四) 女性農業者への取り組み
- (五) 鳥獣被害対策の強化について
- (六) 耕作放棄地対策の実施
- (七) 環境保全対策の取り組みについて
- (八) 農業生産支援対策について
- (九) 原発による山木屋地区避難住民の対策について
- (十) 農業委員会及び事務局体制について

新人農業委員

菅野朝夫

農業委員として三年間の任期を頂きました。

この間に私の担当区域である山木屋地区の皆様と共に役割を果たす事を、お約束致しました。しかしながら、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故で今までの事勢とは、まったく別な世界に飛び込んだ状態です。

このような時こそ互いの意見を真摯に受け止め難問を解決し、明るい方向に導けますように努力します。



